

平成 26 年度 大台ヶ原自然再生推進委員会
第 1 回 持続可能な利用（ワイズユース）ワーキンググループ

議事概要

■ 日 時 平成 26 年 12 月 4 日 (木) 9 : 10 ~ 11 : 10

■ 場 所 奈良商工会議所 3 階 302 会議室

■ 出席者

< 委員 >

氏 名	所 属
佐久間 大輔	大阪市立自然史博物館 主任学芸員
日比 伸子	橿原市昆虫館 統括調整員
村上 興正	元京都大学理学研究科 講師
横田 岳人	龍谷大学理工学部 准教授

< ワーキンググループ委員 >

氏 名	所 属
田村 義彦	自然を返せ! 関西市民連合
真板 昭夫	京都嵯峨芸術大学芸術学部 教授 (欠席)

< 事務局 >

氏 名	所 属
田村 省二	近畿地方環境事務所 統括自然保護企画官 (欠席)
榎本 和久	〃 国立公園・保全整備課長
蒲池 紀之	〃 自然再生企画官
宮下 央章	〃 係員
七目木 修一	〃 吉野自然保護官事務所 自然保護官
小川 遙	〃 〃 自然保護官補佐
宮前 洋一	株式会社スペースビジョン研究所 代表取締役
安場 浩一郎	〃 主任研究員
樋口 高志	株式会社環境総合テクノス 環境部マネージャー

■ 議 事

- (1) 大台ヶ原の利用動向について (報告)
- (2) 西大台利用調整地区の利用者アンケート結果について (報告)

- (3) 大台ヶ原におけるガイド制度について
- (4) 大台ヶ原におけるトイレ設置について
- (5) その他

■ 議事概要

(1) 大台ヶ原の利用動向について

○利用動向に関する分析について

- ・路肩駐車が発生状況と山上駐車場の駐車台数の相関についてグラフを作成し、関係性を分析してほしい。それによって、どの程度の駐車台数で路肩駐車が発生するか分かるので、ドライブウェイ入口の電光掲示板に警告を出すなどの対策を考えることが可能になる。
 - ・西大台利用調整地区の利用状況について、利用者数が上限に達した日は何日くらいあったのか。また、上限に達したため、申し込みを断った人はどの程度あったか。
- (事務局) 上限に達したのは年間で1、2日程度である。申し込みを断った人数は、インターネットの申し込みシステムとなっているので把握できない。
- ・繁忙期の上限に対する充足率は把握できるか
- (事務局) 繁忙期には、最大で90数人の利用者のある日があった。
- ・上限に対する利用者数の充足率や、上限に達した日などのデータについても整理してほしい。

○情報発信について

- ・以前は、大台ヶ原のホームページで紅葉時期の混雑情報の発信をしていたが、今はどうなっているか。
- (事務局) 現在は、情報発信はしていない。ドライブウェイに電光掲示板が設置されているので、それを通じた情報発信は行っている。
- ・どの時期に山上駐車場が混雑するかは分かっているので、事前に混雑情報を発信することも重要である。
 - ・テレビで大台ヶ原の紅葉が紹介されると、多くの人があるため、紅葉の時期だけでも混雑情報の発信をするべき。

(2) 西大台利用調整地区の利用者アンケート結果について

○アンケート結果について

- ・「期待していたもの」に関するグラフをみると、コケに対する期待が高く、また、満足度も高い点が興味深い。「西大台利用調整地区」にもコケに関する情報を載せる必要があるかもしれない。また、紅葉の時期などのピーク時以外の利用促進を考える上でも興味深いデータである。
 - ・利用者の年齢のグラフをみると、60代、70代の利用者が増加していることが分かる。これは全国的な傾向でもあるが、こうした実態を踏まえると、登山の安全対策のあり方も変わってくると考えられる。
 - ・混雑感に関する質問では、一定数の利用者が混雑感を感じているが、これはいつの時期のデータか。
- (事務局) アンケートは10～11月に実施したため、秋の繁忙期の利用者のデータである。

- ・西大台に入山する際、グループごとのインターバルはどの程度設けているか。
- （事務局）10分のインターバルを設けている。
- ・インターバルを設けるだけでは、入山中にグループが出会ってしまうので、各グループにガイドが付いてグループ間の距離をコントロールする必要があるのではないか。

○アンケート結果の分析について

- ・平成25年度と26年度のグラフを比較すると「満足」の割合が減少しているが、これは、今年度のデータが繁忙期に実施したデータであるため、立ち入った人数が多いと満足度が低くなるのではないのか。その点を確認するため、同時期のデータで比較してみてもどうか。

（3）大台ヶ原におけるガイド制度について

○ガイド制度の推進体制について

- ・大台ヶ原におけるガイド推奨の仕組みに関して、ガイドの登録機関の案として「大台ヶ原の利用に関する協議会」が挙げられているが、それ以外にガイド制度を進めていく方法はないと考える。また、協議会を登録機関として検討する場合は、近畿地方環境事務所が事務局として、中心的な役割を果たす必要がある。
 - ・ガイド制度に関しては、誰が事務を担うのかがポイントであるが、その点についてどのように考えているか。
- （事務局）事務局は協議会が担うと考えているが、協議会については、ガイド制度の運用などについて協働することが可能な体制にしていく必要があると考えている。
- ・協議会の中にコアとなる組織をつくって、ガイド制度などの事業を進めていく必要がある。
 - ・以前のように、専門家が委員として協議会に入って議論ができるような体制にしてほしい。
- （事務局）大台ヶ原自然再生推進委員会と協議会との関係を明確にして、地域の利用については、推進委員会の意見を踏まえた上で、協議会で合意形成し、それを基に事業を推進していくという形にしたい。

○ガイド制度の対象について

- ・パークボランティアによるガイドを対象に含むことや、フェノロジーカレンダーの手法を実施することなども書かれているが、あまり手を広げるよりも、ガイド登録制度を確立することに集中した方がよいのではないか。
- （事務局）大台ヶ原におけるガイドの全体的な枠組みを考えた場合、プロガイドとボランティアとの棲み分けを明確にする必要があるため、考え方の整理のためにパークボランティアによるガイドを挙げている。また、大台ヶ原の利用に関しては、ビジターセンターでどのように情報提供していくかといった課題もあるので、大台ヶ原全体の利用を含めてトータルな方針を出していきたいと考えている
- ・ガイドの登録制度については、西大台だけでなく、東大台についても対象に入れる必要があると思う。また、大峰、大杉谷についても対象に含める必要があるのではないか。
 - ・当面は、あまり対象を大きくせず、西大台から始めて、東大台等に拡大していった方がよい。
- （事務局）大台ヶ原と大峰や大杉谷とでは、求められるガイド像が異なっており、大台ヶ原で求められるのはインタープリテーションを中心としたガイドなので、大台ヶ原におけるガイドは、大峰、大杉谷と明確に区別して進めていきたいと考えている。
- ・ガイドの側から、西大台だけでは生業として成り立たないという意見もあるのではないか。

→（事務局）その点については、協議会でも議論したい。

（４）大台ヶ原におけるトイレ設置について

- ・（事務局）大台ヶ原には、既に駐車場にトイレが設置されているため、ハード整備の検討の前に、トイレ利用に関する普及啓発（登山道にトイレが無いことの周知など）について検討が必要。また、東大台では、一般の観光客も多く、携帯トイレの利用が受け入れられない可能性もあるので、携帯トイレ以外の方式を考えることも視野に入れて、今後利用者に対する調査を検討したい。
- ・携帯トイレを導入するかどうかは、環境省が、利用者を登山客と考えるか、観光客と考えるかによるのではないかと考えられる。携帯トイレを導入するのであれば、利用者にも大台ヶ原は登山の山であるという認識を持ってもらう必要がある。
- ・（事務局）基本的に、西大台は登山の山、東大台はより一般的な利用を受け入れる場であり、利用や安全管理のあり方もそれぞれ異なると考えている。
- ・東大台には駐車場に既に2か所トイレがあり、これまで大きな問題はなかったため、トイレの設置の必要性は低いのではないかと考えられる。
- ・東大台については、区域内にトイレが無いということを周知すればよいのではないかと考えられる。むしろ西大台の方が携帯トイレブースの必要性が高く、またレクチャーで使用方法を説明できるので、設置の実現性が高いと考えられる。
- ・（事務局）西大台については携帯トイレブースの設置を検討し、東大台については、まずはトイレ利用に関する普及啓発を行う方向で検討する。

（文責：近畿地方環境事務所国立公園・保全整備課 速報版のため後日修正の可能性あり）